

みずほCustomer Desk Report 2023/10/10 号 (As of 2023/10/09)

金融市場部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値 GBP/USD	- AUD/USD
TKY 9:00AM	149.14	1.0566	157.63	1.2216	0.6371
SYD-NY High	149.23	1.0574	157.68	1.2245	0.6415
SYD-NY Low	148.44	1.0520	156.60	1.2164	0.6343
NY 5:00 PM	148.51	1.0567	156.93	1.2238	0.6411

	終値	(前日比)		終値	(前日比)
NY DOW	33,604.65	197.07	日本2年債	-	-
NASDAQ	13,484.24	52.90	日本10年債	-	-
S&P	4,335.66	27.16	米国2年債	-	-
日経平均	-	-	米国5年債	-	-
TOPIX	-	-	米国10年債	-	-
シカゴ日経先物	31,285.00	▲ 75.00	独10年債	2.7630%	▲ 0.1210%
ロンドンFT	7,492.21	▲ 2.37	英10年債	4.4765%	▲ 0.0955%
DAX	15,128.11	▲ 101.66	豪10年債	4.5280%	▲ 0.0360%
ハンセン指数	17,517.40	31.42	USDJPY 1M Vol	9.08%	0.23%
上海総合	3,096.92	▲ 35.03	USDJPY 3M Vol	9.24%	0.08%
NY金	1,864.30	19.10	USDJPY 6M Vol	9.49%	0.04%
WTI	86.38	3.59	USDJPY 1M 25RR	▲ 1.24%	Yen Call Over
CRB指数	280.11	3.21	EURJPY 3M Vol	9.44%	0.32%
ドルインデックス	106.08	0.04	EURJPY 6M Vol	9.87%	0.24%

アジア	週明けアジア時間のドル円は、149.14レベルでスタート。東京休場で新規の取引材料に欠ける中、韓国、台湾に加え香港も台風で前場休場とアジア各国が休場の中、流動性も薄く方向感なく小動き。149.14のオープンレベルを中心に10銭ほどの狭い値幅でのみ合い推移が終日続き、結局、オープンほぼ同水準となる149.20レベルでアジア時間をクロス
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、149.20レベルでオープン。日本と米国が休場でドル円は動意なし。149.16レベルでNYに渡った。週末のイスラエルのヘッドラインに欧州時間のリスク資産はリスクオフで推移していたが為替への影響は限定的だった。なお、イスラエル通貨シェケルはおよそ2%安で推移していた。
ニューヨーク	休場

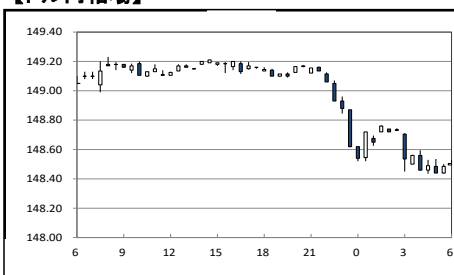
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
10月6日	14:00	日 景気一致指数・速報	8月 114.3	114.2
	15:00	独 製造業受注(前月比)	8月 3.9%	1.5%
	21:30	米 非農業部門雇用者数変化	9月 336k	170k
	21:30	米 失業率	9月 3.8%	3.7%
	21:30	米 平均時給(前月比/前年比)	9月 0.2%/4.2%	0.3%/4.3%
10月7日	22:00	米 ローガン・ダラス連銀総裁 講演	「米金利上昇は追加利上げの必要性を低下させる可能性」	

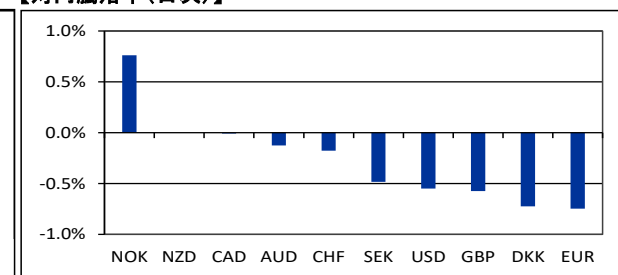
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
10月10日	22:30	米 ポスティック・アトランタ連銀総裁 講演	-	-
10月11日	04:00	米 カシユカリ・ミネアポリス連銀総裁 講演	-	-

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	147.50-149.00	1.0500-1.0600	156.00-158.50

【マーケット・インプレッション】

先週末のドル円は、非農業部門雇用者増加数が市場予想を上回り、労働市場が底堅く推移している様子が示されたことで、一時149.53円まで上昇した。しかし、その後は、時間当たり賃金の伸びが鈍化したことなどが注目され、米長期金利が低下に転じると、一転して上昇幅を縮小させる展開となった。9日のドル円は、イスラエルとハマスの衝突を受けリスク回避姿勢が強まったことに加えて、Fed高官から追加利上げに慎重な見方が示されたこともあり、円高ドル安基調となった。本日のドル円は、上値が重い展開を予想する。週末に勃発したイスラエルとハマスの衝突は、予断を許さない状況が続いており、事態が一段と悪化する可能性も否定できない。こうした中、グローバルで金利には低下圧力がかかりやすい展開となることで、ドル円の上昇余地は限られたものになるであろう。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 伊藤・松木